

新たなリージョナルステート研究会

1. はじめに

リージョナルステート研究会は、平成 24 年度より武智新代表、阪新副代表の新体制で活動することとなりました。

本研究会は、これまで自然科学教育分科会(以下教育分科会)、循環技術システム研究分科会、地域主権分科会の 3 分科会体制で活動してまいりましたが、教育分科会がエンジョイサイエンス研究会として独立することとなり、平成 24 年度からは 2 分科会での活動となります。

以下に、リージョナルステート研究会の最近の活動及び今度の活動予定について報告させていただきます。

2. リージョナルステート研究会平成 23 年度総会及び講演会の開催について

平成 24 年 1 月 27 日(金)の 18:00 より、リージョナルステート研究会平成 23 年度総会及び講演会を参加人数 31 名、札幌エルプラザ 2 階環境研修室 2 にて開催しました。(写真-1 参照)



写真-1. 開催状況

総会では、例年に従いまして、各分科会の座長または幹事より平成 23 年度活動報告及び平成 24 年度活動計画の発表を行いました。

平成 23 年度は、教育分科会がリージョナルステート研究会としての最後の活動となるため、講演

会は「自然科学教育分科会 10 年間の歩み」と題しまして同分科会の板谷座長より発表して頂きました。

教育分科会は、「元気な北海道は元気な子ども達から」を合言葉に、池田晃一氏を初代座長に、平成 12 年 2 月に発足しました。

歴代の座長は、池田晃一氏に引続き、五十嵐敏彦氏、対馬一男氏、板谷利久氏の 4 人となります。(図-1 参照)

会員数も発足当時 13 名から年々増加し、平成 20 年度に最大の 77 名に達し、平成 23 年は 46 名で活動しました。リージョナルステート研究会の分科会としては、最も規模が大きい分科会でした。



図-1. 教育分科会座長の在籍期間

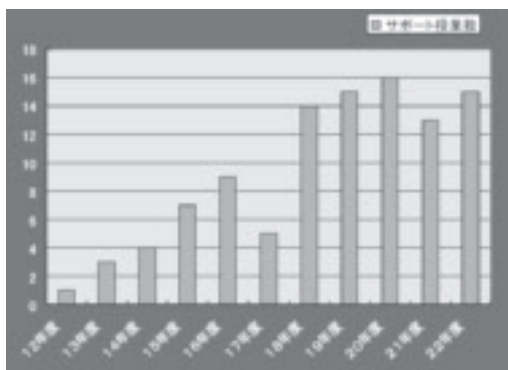
活動の目的は、大きく 2 つあります。第一は、将来を担う子供たちに、北海道の最大の魅力である自然環境の大切さを体験しながら理解してもらい、それを地域の重要な財産として受け継ぐとともに、上手に活用してゆく心を育てること。第二に、自然科学、科学技術の面白さ、奥深さ、大切さを分かりやすく教え、北海道の地域産業の活性化を支える技術者を目指す人材の目を育てることです。

具体的には、小学校等に出向いての自然科学関連の実験やサポート授業で、平成 12 年に札幌聖心女子学院で実施した「精進川の自然観察会・水質調査」から始まり、平成 16 年の江別小学校教師を対象にした「校庭の樹木について」、平成 20 年の寿都町教

育委員会主催「自然体験サバイバルキャンプ」、最近では北広島児童センターでの「科学に関する実験」（平成 23 年実施）を実施しています。

発足当初の平成 12 年は年間 1 件であったサポート授業も、年を追う毎に数を増やし、平成 18 年からは年間 10 件以上のペースで実施するまでになりました。平成 20 年が最大となり、その年のみで 16 件実施しました。（図－2 参照）

また、小学生、中学生、最近ではシニアにも枠を広げて、より多くの世代の方々を対象として、活動を実施しています。



図－2. 分科会でのサポート授業数の変遷

教育分科会の皆様、これまで、リージョナルステート研究会を支えて頂き感謝致します。今後は、エンジニアサイエンス研究会での益々の発展を祈願しております。

3. リージョナルステート研究会の平成 24 年度活動計画について

リージョナルステート研究会の平成 24 年度の主な活動としては、以下を予定しています。

6 月に臨時総会を実施し、役員改選、会則改定等を含めて組織改編について承認を頂き、その後、「LCC と道内航空網の展望について」と題しまして、武山事務所株式会社代表取締役武山泰典氏（技術士：総合監理・建設）を講師にお迎えして講演会を実施致します。

また、施設見学会として 8 月に「せたな町洋上風力発電施設」、9 月に「白老町バイオマスプラント発電施設」を予定しております。なお、総会は来年に 1 月に予定しております。

循環技術システム研究分科会では、近年まで、自

然エネルギーの活用とその普及をテーマに社会システムのあり方を様々な角度から検討して参りました。

自然エネルギー関連施設としては、これまでに利雪、メガソーラ発電所や地熱発電所等を見学しており、本年は、先述しました洋上風力発電、バイオガス発電施設を見学した後、秋口より来年にかけて、これまでの自然エネルギーに関する活動を取りまとめる予定です。

地域主権分科会では、最近 2 年間は、北海道の経営資源を考えるため、外部より講師を招き、「あなたは森に投資しますか」、「復興の今を知る、今を考える」、「できないをできる！に変える実現力」等の演題で講演会を実施してきました。これらを踏まえて、本年より限界集落、中心市街地の衰退、最大 40% の人口減少等をキーワードとして、福祉・年金問題、第 6 次産業等での雇用確保、防災やコンパクトシティ等を対象として、北海道を自律的發展へ導く方法論を検討してゆく予定です。

リージョナルステート研究会や分科会が主催する行事や見学会等については、内容が具体化し開催日が近づいた段階で EPO 等を通じて、皆様へご案内させていただきます。

4. おわりに

リージョナルステート研究会は、「北海道の自律と活性化のため、我々技術士が貢献できること、身の回りのことから実践してゆこう」という市村一志氏（初代代表）の呼びかけにより、平成 10 年 7 月に誕生しました。

その後、北越正生氏、対馬一男氏へ代表の座がバトンタッチされ、本年度より武智弘明氏を研究会代表として、新たな歴史を刻んでゆきます。

2 つの分科会での活動となりますが、これまで以上にタイアップして北海道の自律と活性化を目指してゆく所存です。皆様、今後ともよろしくお願い致します。

なお、我々とともに活動されたい技術士、技術士補及び修習技術者の皆様、随時受け付けておりますので、北海道本部 HP より研究会 HP にアクセスしてお申込みお願い致します。